

日本近海の21世紀末までの海面水温の情報を公表しました

日本近海の海面水温について、21世紀末時点の予測に加えて、21世紀末に至るまでの海面水温の情報を公表しました。これにより、日本近海の海面水温の将来変化を詳細に把握することができます。

気象庁では、日本における気候変動対策に資するよう、気候変動の観測結果や将来予測の情報を提供しており、日本近海の海面水温は、地球温暖化の進行に伴い上昇が予測されています。海面水温は台風の発生や、海洋生物の分布や生態系等に影響を与えることから、気候変動対策の検討に重要な情報です。

そのため、「気候予測データセット 2022^{※1}」（文部科学省及び気象庁）を用いて解析を進め、これまで公表していた21世紀末時点の予測に加えて、21世紀末に至るまでの海面水温の情報を気象庁ホームページに掲載するとともに、あわせて「日本の気候変動 2025 を用いた気候変動解説の手引き^{※2}」において紹介しています。これにより、日本近海の海面水温の将来変化を詳細に把握することができます（別紙）。

今後も最新の研究成果を取り入れながら、予測情報の高度化に向けた開発を進め、気候変動対策に資する情報の充実に取り組んでいきます。

※1 文部科学省と気象庁が中心となって整備した、日本域を対象とする最新世代の気候変動予測データ集：<https://dias.jp.net/ds2022/>

※2 日本の気候変動 2025 を用いた気候変動解説の手引き：
<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>（本編の欄に掲載）

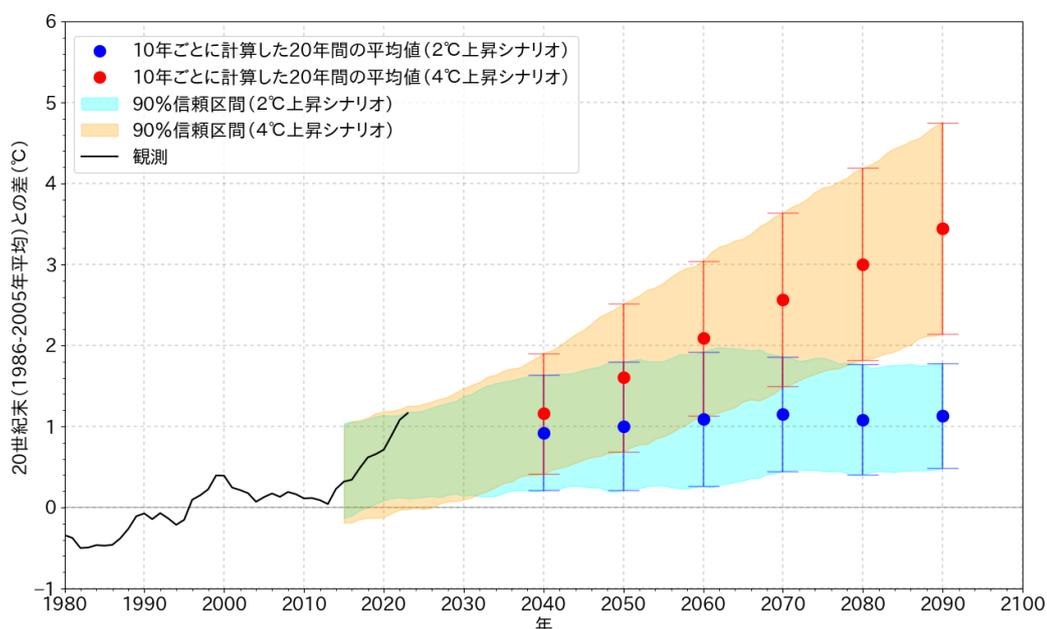
【気象庁ホームページ上の掲載場所】

海面水温の将来予測（日本近海）：

https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_sst_project/japan_sst_project.html

問合せ先：大気海洋部 環境・海洋気象課 笹野
電話 03-6758-3900（内線 4682）

日本近海の海面水温の将来変化について



図：日本近海の全海域平均海面水温（年平均）の推移

●は10年おきに計算した20年間の平均値、□と陰影は1年おきに計算した20年間の90%信頼区間の幅を表す。青系は2℃上昇シナリオを、赤系は4℃上昇シナリオを表す。黒線は5年移動平均した観測値を表す。

追加的な温室効果ガス削減対策がほとんど取られなかった場合（4℃上昇シナリオ）は、21世紀末にかけて海面水温が上昇し続け、約3.5℃まで上がる一方、パリ協定の2℃目標が達成された場合（2℃上昇シナリオ）は、2060年頃に上昇が止まり21世紀末にかけてほぼ一定の約1.1℃になります。

表：全海域平均海面水温（年平均）の20年ごとの上昇幅

海域名	シナリオ名	20世紀末を基準とした上昇幅（℃）					
		2031～2050年平均	2041～2060年平均	2051～2070年平均	2061～2080年平均	2071～2090年平均	2081～2100年平均
全海域平均	2℃上昇シナリオ	+0.92* (+0.21～+1.63)	+1.00* (+0.22～+1.79)	+1.09* (+0.26～+1.92)	+1.15 (+0.45～+1.86)	+1.08 (+0.41～+1.76)	+1.13 (+0.48～+1.78)
	4℃上昇シナリオ	+1.16* (+0.41～+1.90)	+1.60 (+0.69～+2.51)	+2.09 (+1.13～+3.04)	+2.56 (+1.49～+3.64)	+3.00 (+1.82～+4.19)	+3.45 (+2.15～+4.75)

上段は20世紀末（1986～2005年平均）からの上昇幅で、上の図の●に相当する数字。下段は90%信頼区間の範囲で、前出の図の□に相当する数字を表す。なお、「*」が付加してある数字は信頼水準95%で統計的に有意な値、印の無い数字は99%で有意な値を表す。